

もとの関西

挑む人

出所者を雇用、再犯防

カンサイ建装工業社長

草刈 健太郎さん(44)

刑務所で服役した人を積極的に雇い、再犯防止に貢献しようという関西の中小企業経営者らが始めた「職親プロジェクト」。2013年の設立から参加し、これまで全国の少年刑務所で就職説明会を開くなど支援に携わってきた。

05年に妹を米国人の夫に殺された過去がある。憎くて仕方がなかったが、のちにこの義弟も父を殺された被害者だったことを知った。「親に心をもらわなかった人がいる。社会の支えがないと妹のような被害者がまた生まれる」

出所後には住宅を提供し、出所者が半年間働いて希望すれば、正社員に採用している。だが刑務所内で採用を決めて住宅の契約をし

ても、数日で行方をくらます出所者もいる。「犯罪者を雇っている企業だから」と得意先に契約を断られたケースもあった。それでも「刑務所内での受刑者の更生に費用をかけるよりも、出所後に働いて税金を納めてもらう方が社会のため」という信念は揺るがない。

課題は元受刑者の雇用に興味を持つ企業の不安をどこまで払拭できるかだ。鍵となるのは出所後の仕事の定着率。15人を採用したが定着したのは4人だ。「反省できない人にどれだけ罰を与えても仕方がない」。医師など専門家の知見も交え、刑務所内の教育のあり方などを提言する活動を始める。

なぜ義弟と会った際、妹が危な



いと気がつかなかったのか。今でも自分を責めることがある。再犯に走らず、罪を悔いる人間に育ち、謝罪してこそ被害者の救済につながる。挑戦は道半ばだ。

(大阪経済部 菊地悠祐)